

## 県議会だより



新潟県議会 6月定例会より  
【会期：6月19日～7月5日】  
(17日間)

今夏は、6月が猛暑で空梅雨となりました。7月は梅雨末期のゲリラ豪雨で本県をはじめ全国各地では甚大な被害を受けています。被災地の皆さんには、心よりお見舞い申し上げます。

昨年暮れの政権交代で安倍政管が誕生しました。アベノミクス（経済・財政・成長戦略）という政策を掲げ、スピード感を持って長引く円高・デフレからの脱却に取り組んでいます。こうした中、大企業が集中する大都市では効果が出ているようですが、地方では、まだまだ一部に留まっています。しかし、これまでの悲壮感、閉塞感は徐々に改善しつつあるように思います。一日も早く、本物の景気回復による安心・安全な生活が享受できる、そんな社会の実現を望むものです。

また、グローバル化の中にあっては、日本は周辺諸国との間で様々な課題に直面しています。先進国としての日本の果たす役割は大変重要ですが、それには安定した政治と経済の両輪が不可欠です。

さて、6月定例会も7月5日で閉会となりました。参議院選挙のため例年より一週間早く始まりました。大きな争点もなく、25年度一般会計補正予算総額1,044百万円の増額補正など19議案が可決されました。補正予算の主な内容は、暴風・豪雪災害の早期復旧を図るため、また、当初予算編成後の事由による緊急性のある経費等です。

また、今議会の争点は次のようなものでした。

- (1) アベノミクスによる期待と功罪、本県における影響。
- (2) 小木・直江津港路に関し、県と地元の対応。
- (3) 人口減少と雇用確保。
- (4) 柏崎・刈羽原発の再稼働への対応。
- (5) 農業大県の知事として、TPP問題への対応。

その他、少子高齢対策、医師不足対策、後継者不足や過疎対策等など県政課題は山積していますが、一つ一つ丁寧に少しでも県政発展に役立つよう議論してまいりたい所存です。

毎年6月定例会後は、常任委員会と特別委員会の改選となりますが、今回は念願でありました「常任委員会は産業経済委員会、特別委員会は新産業・雇用対策特別委員会」に所属することになりました。妙高市を含む上越地域発展のため一生懸命がんばります。

結びに、皆様方にはお変わりなくお過ごしのことと存じますが、時節柄熱中症予防には、くれぐれもご留意されますようご祈念申し上げます。議会報告とさせていただきます。

## 審議の結果

写真は、県議と県内行政視察研修で、「新潟県危機管理センター」で説明を受ける参加者の皆様

## &lt; 提案された議案 &gt;

- ・ 20件のうち、一般会計補正予算1件、企業会計補正予算1件、条例9件、事件議決5件は全員賛成で可決。
- ・ 追加議案の人事関係4件（副知事、人事委員会委員、監査委員、収用委員会委員）は、全員賛成で可決または同意。

## &lt; 請願・陳情 &gt;

- ・ 19件のうち継続審査とすべき請願は7件。陳情7件。不採択とすべき陳情は5件。

## &lt; 議員発議による意見書 &gt;

- ・ 10件のうち5件を可決されました。

## 委員会構成

議長・副議長・委員会の構成が新しくなりました。

議長 中野 洸 氏（佐渡市選出）

○副議長 尾身 孝昭 氏（十日町市中魚沼郡選出）

## &lt; 議会運営委員会 &gt;

委員長 岩村 良一 氏 ○副委員長 皆川 雄二 氏

## &lt; 常任委員会 &gt;

## ・総務文教委員会（定員14名）

委員長 楡井 辰雄 氏 ○副委員長 宮崎 悦男 氏

## ・厚生環境委員会（定員13名）

委員長 小林 一大 氏 ○副委員長 坂田 光子 氏

## ・産業経済委員会（定員13名）

私は、この委員会に所属しています。

委員長 小島 隆 氏 ○副委員長 矢野 学 氏

## ・建設公安委員会（定員13名）

委員長 皆川 雄二 氏 ○副委員長 青柳 正司 氏

## &lt; 特別委員会 &gt;

## ・絆づくり対策特別委員会（定員17名）

委員長 内山 五郎 氏 ○副委員長 高橋 直輝 氏

## ・総合交通・防災対策特別委員会（定員17名）

委員長 斉藤 隆景 氏 ○副委員長 高倉 栄 氏

## ・新産業・雇用対策特別委員会（定員17名）

私は、この委員会に所属しています。

委員長 沢野 修 氏 ○副委員長 笠原 義宗 氏

## 6月定例会、常任委員会で私が所属する厚生環境委員会での私の質問から要点のみをご紹介します。

### < 県民生活・環境部 >

- (質問) 地域グリーンニューディール基金の実施状況と雇用の創出効果は。
- (回答) 省エネ、新エネ設備の導入、PCB廃棄物の処理、海岸漂着物の回収事業で、延べ391名の雇用。平成25年度では、延べ50名を予定。
- (質問) 本県は海岸延長が長く、漂着物が年間1800tあると言われていたが、種類や地域は。
- (回答) 平成23年11月から翌年3月までのサンプリング調査では、上・中・下越平均1km当たり月に7.5t、佐渡は0.2tで、種類は流木や芦など草木など60%、プラスチック類など人工物も多い。
- (質問) 流木は塩分を含んでいて、処理困難物となっているが。
- (回答) 処理は市町村で行っているが、焼却炉が傷むなど問題が多い。水に浸して塩を除去したり、埋め立てしている。
- (質問) 対岸から危険な漂着物が流れ着いている。海水浴シーズンを迎え安心な海岸にする必要があるが対策は。
- (回答) 主に冬期間漂着するが、昨年度は1150個のうち強アルカリ性を示した危険物が1個確認された。中和処理しているが、間もなく海水浴シーズンとなるので、市町村と協力して対応していく。
- (質問) 漂着物の発生抑制は、国同士で対応するよう働きかけは。
- (回答) 平成21年度に海岸漂着物処理推進法が制定された。国が財政措置として基金運用で対応している。対岸諸国に対し日本海岸関係12府県で、日本海沿岸地帯振興連盟を設けて要望活動などを行っている。

### < 防 災 局 >

- (質問) 航空消防防災体制の整備として、災害発生時の状況把握のため、無人自律航空機による運航体制を整備するとしているが内容は。
- (回答) あらかじめ予定されたルートを自動飛行する無人航空機で、撮影機材などを搭載して遠隔地の写真撮影、ビデオ撮影など可能。全長2m20cm、幅2.8m、航空距離が約500km、4～5時間飛行可能。県がこれを購入して委託業者が運航と保守点検を行うもの。
- (質問) 防災ヘリの補完と考えていいのか。
- (回答) 防災ヘリは有視界飛行であり、それを補完するものです。特に雪山などでは雪崩発生防止にも役立つと考えている。
- (質問) このようなラジコン飛行機の運航実績を持つ妙高市内の企業のノウハウ活用は。
- (回答) そのようなノウハウを活用させてもらうよう検討している。
- (質問) 新潟県の地形から、上・中・下越と長い。離着陸できる中継基地などの検討は。
- (質問) 当面1か所で運航していくが、今後は委託先と検討していきたい。

### < 福祉保健部 >

- (質問) 風しん接種予防対策に関し、すでに2名の委員から質問がありましたので、関連して聞きたい。全市町村が実施しているが内容な様々とのこと。今後、定期接種していない世代の対策は。
- (回答) 現在、抗体価調査では、男性では20歳代で7%、30歳代で21%、40歳代で24%の約7万人が、また、女性では20歳代で4%の約4千人が接種していないと推定される。
- (質問) 相当数の数であり、流行防止が大切。市町村への働きかけは。
- (回答) 国が中心となって対策するよう働きかけていく。
- (質問) 風しん予防接種で副作用を起こす人も少ないが、子宮頸がんワクチンでの副作用が社会問題となっている。県内では風疹予防接種の副作用者2名いると聞くが、予防接種法で保障されるのか。
- (回答) 報告を受けているが、救済措置を受けたかは確認していない。
- (質問) 高齢者、障害者、児童など福祉施設では、消防法によるスプリンクラー設置義務外の事故が多発している。県内には該当施設の現状は。
- (回答) 平成25年6月1日でグループホーム28施設、小規模多機能型居宅介護施設では143か所ある。
- (質問) これら対象外のうち、設置に取り組んでいる施設は。
- (回答) 大半が設置に取り組んでいる。残りは、グループホームで1施設、居宅施設では2施設ある。

## 「横尾ゆきひで」 汗かき活動記

日頃の私の活動から、その一部をご紹介します。ご意見・ご要望がございましたらお気軽に事務所までお声がけください。

### 「絆づくり対策特別委員会県外行政視察」から

2013年5月14～16日



2泊3日で、関西方面(京都市、滋賀県栗東市、大津市、野洲市)の5か所を行政視察してきました。初日は京都市山科区にある「佐々木化学薬品」を訪ねて、「ワーク・ライフ・バランスや男女共同参画などの推進に向けた取り組みについて」話をお聞きしてきました。玄関先での女子社員並びに社長や幹部の接客ぶりをみて「久しぶりに日本らしい愛社精神に遭遇した思いでした。」結婚後の再雇用や介護の必要な社員に寛大な姿勢は大いに評価すべきです。

2日目の最初は滋賀県栗東市議会を訪ねて「選ばれる自治体(全国上位の人口増加率・合計特殊出生率・住みよさランキング等)としての要因と定住支援・子育て支援の取り組みについて」担当者から説明を受けました。平成19年の合計特殊出生率でも1.90人と全国平均1.34人を超えなど、若者の街として成長著しいまちの印象でした。

つぎに、大津市にある「社会福祉法人・湘南学園」で、児童養護施設の運営と課題について、園長さんから話を伺いました。現在は、児童養護施設の他に、保育の家(保育所)と知的障害者授産施設(菓子類や木工作品など)などがあります。子供たちの成長に合わせて生活が出来るようになっていてプライバシーに配慮が見られました。入居している子供たちの大半は、親元を離れた状態です。社会人になって、立派に成長した子供たちが園舎を訪れることが一番うれしいとのこと。

この日の最後は、大津市にある大津赤十字病院で、「総合周産期母子医療センターの概要」と「新生児専用ドクターカーの取り組みについて」話を伺いました。昭和18年に大津赤十字病院となり、現在、26の診療科、824床の病床数の総合的医療機能を備える、救急救命センターであり急性期医療の提供機能、非常災害救急の拠点である災害機能センター機能もある施設です。施設内には、阪神・淡路大震災を教訓に非常時備品が備えられていたり、大いに参考となりました。委員長の言葉で印象に残ったことは「ここが最後の砦との思いで、どんな困難にも受けて立つ気持ちで取り組んでいる。」でした。

最終日は、野洲(やす)市議会を訪ねて「野洲市ものづくり経営交流センターの概要と企業OBの活用に向けたものづくり人材養成スクールについて」説明を受けました。「ものづくり人材養成スクール」では、東京大学ものづくり経営研究センターの指導で、長年にわたり大手企業の現場で培ったノウハウを、中小企業の現場で働く人を対象に指導者として養成するスクールを開設し、地元企業の業務改善支援をしているとのこと。

詳細は、新潟県議会 HP より「絆づくり対策特別委員会県外行政視察レポート」をご覧ください。

<http://www.pref.niigata.lg.jp/gijichosa/>

### 「横尾ゆきひで県議と県内行政視察研修」から

2013年6月17～18日



毎年、恒例となりましたが、市民の皆様(参加者83名)とご一緒に行政視察研修を行いました。17日の午前11時から県庁内にあります「危機管理センター」(防災センター)と「県議会議場」を2班に分かれて研修を行いました。

危機管理センターでは、危機対策課担当者から「県民の生命財産を守るための危機管理体制とリアルタイムな情報の収集と伝達、即時体制など」について説明を受けました。一方の班は、議会事務局から、議員席や説明員席、議長席や速記者席、また、年間4回(2月、6月、9月、12月の定例会や臨時県議会など)の開催について説明を受けました。殆どの皆さんは初めて体験で、興味と興奮を覚えたようでした。

その日は、山形県鶴岡市(合併前は温海町)の温海温泉「たちばなや」に宿泊し、参加者同士の友好を深めました。これも研修旅行の目的の一つでもあります。

翌18日は、午前11時半より阿賀野市にあります「安田ヨーグルト工場」を視察。県内最初の酪農を始めたところで、そのうちの15戸の酪農家で、ヨーグルト工場を創設し、今日に至っているとのこと。毎日の工程として午前中は、約2tの生乳牛を処理し、午後は徹底的に消毒作業を行い衛生管理と品質管理を行っているとのこと。参加者の大勢の方が、おいしいヨーグルトを買い求めていました。



午後は、阿賀野市にあります「新潟県東部産業団地の太陽光発電所」を研修しました。現場では新潟県企業局から、県の取り組みについて説明を受け、阿賀野市産業建設部商工観光課の説明委員から詳細説明を受けました。

現在は、1号機(23年10月31日より発電開始)の1メガワット、2号機(24年4月1日より発電開始)の1メガワットだけですが、今後は、昨年9月定例会で補正予算化された「新たに敷地面積4.5万㎡、最大出力15メガワット」の発電所を間もなく整備することとなっています。一般家庭約5千戸分で総事業費約6.9億円の投資となります。2015年より発電開始を予定しています。企業誘致が困難なことや遊休化している敷地の活用が優先された結果ですが、雇用に結びつかない問題もあるとのことでした。

2日間の研修で参加された市民の方からは、「普段見られない場所を見れてよかった」と大変喜んでおられました。